三月 五雲会延期公演

五月六日（水） 午前十二時始
開場 十一時
於 宝生能楽堂

12:00 嵐山

シテ 大友 順
ツレ 佐野 玄宜
木守 金野 泰大
勝手 木谷 哲也
ワキ 梅村 昌功
ワキツレ 舘田 善博
〃 御厨 誠吾
間 大藏 教義
大鼓 安福 光雄
小鼓 森 貴史
太鼓 金春 惣右衛門
笛 栗林 祐輔
後見 金森 秀祥 小林 晋也 東川 尚史 金森 隆晋
地謡 石黒 空 上野 能寛 藤井 秋雅 藪 克徳 辰巳 満次郎 宝生 和英 朝倉 俊樹 小倉 健太郎

13:10 膏薬煉

大藏 彌太郎
大藏 基誠

〈休憩十五分〉

13:55 忠度

シテ 高橋 憲正
ワキ 則久 英志
ワキツレ 工藤 和哉
〃 野口 琢弘
間 吉田 信海
大鼓 亀井 洋佑
小鼓 鳥山 直也
笛 寺井 義明
後見 佐野 由於 小倉 伸二郎
地謡 鵜田 航己 辰巳 和磨 今井 基 川瀬 隆士 當山 淳司 今井 泰行 山内 崇生 佐野 弘宜

〈休憩十五分〉

15:25 葵上

シテ 水上 優
ツレ 金森 良充
ワキ 殿田 謙吉
ワキツレ 御厨 誠吾
間 小梶 直人
大鼓 佃 良太郎
小鼓 飯冨 孔明
太鼓 林 雄一郎
笛 藤田 貴寛
後見 高橋 亘 澤田 宏司 木谷 哲也
地謡 朝倉 大輔 金井 賢郎 田崎 甫 佐野 弘宜 亀井 雄二 野月 聡 和久 荘太郎 内藤 飛能

終演予定 十六時二十五分頃

演目の解説

能「嵐山」（あらしやま）
帝の命で嵐山の桜を見に臣下がやって来ます。桜の名所は吉野山なのですが、御幸には遠いので、京の嵐山に移植されたのです。臣下は桜の木の下を清める老夫婦に会い、言葉を交わします。老人は、この桜は吉野の桜を移したので、吉野の神々も降臨すると言い、西の空に去って行きます。その後桜の枝を手にした女神の木守、男神の勝手の二神が現れ、舞を舞っていると、蔵王権現が颯爽と出現して豪快な舞を舞います。

狂言「膏薬煉」（こうやくねり）
膏薬を商う都の膏薬練は、鎌倉に強い膏薬練が居ると聞いて鎌倉へ下ります。また鎌倉の膏薬練は都に強い膏薬練が居ると聞いて都へ登ります。上下の街道で出会った二人は、互いに膏薬の由来を誇り合い語りだします。また膏薬の配合された秘伝の薬種を明かし合い、勝負をします。勝負の仕方は単純。鼻の先に膏薬を塗り引っ張り合います。勝ったのは…。都と鎌倉のユーモラスな勝負が笑いを誘ってくれます。

能「忠度」（ただのり）
須磨の浦を訪ねた僧は、一本の桜の木の下で老人に出会います。夕暮れになり宿を請う僧に老人は、この花の陰ほど相応しい宿はあるまいと「行き暮れて木の下陰を宿とせば、花や今宵の主ならまし」という忠度の歌を口ずさみ、僧が藤原俊成と縁があると知って自ら忠度と名乗り、都に上る事があったら俊成に言伝して欲しいと言って去って行きます。その夜木の下でまどろむ僧の夢に、公達姿の忠度が現れると、岡部六弥太と戦った最後の有様を語ります。

能「葵上」（あおいのうえ）
光源氏の正妻葵上は得体の知れない病で臥せっていました。「もののけ」が憑いていると考えた朱雀院の臣下が巫女に梓の弓を引かせると、弓の音に惹かれて高貴な女性の生霊が現れます。臣下がおおよそ名はわかっているが、名乗り給えと請願すると、女性は六条御息所の怨霊と名を明かすと、源氏をめぐって嫉妬の心が強く沸き上がり、また賀茂の祭りでの車争いで恥をかかされことを恨み、冥界に連れ去ろうとします。そこで、横川小聖が呼ばれて祈祷が始まると、鬼の姿となった御息所は祈り伏せられ、ついに成仏して去って行きます。

次回予告

二〇二〇年五月十六日（土） 正午始

養老 金野 泰大
羽衣 小林 晋也
石橋 金森 隆晋

文化庁文化芸術振興費補助金
（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会